

かずさの博物誌

チュウヒ

～ゆったりと飛ぶヨシ原のタカ～

文・写真／成田篤彦

最近では会議が多くて、一日中、座りっぱなしだ。翌日、さっと晴れた。そうなる仕事が溜まっていても、うずうずしてくる。カメラをもつて海岸に出かけた。

ヨシ原の中の道を歩いてみると右側にトビとそれよりやや小型のタカがゆったりと飛んでいた。尾がやや長い。「チュウヒか？」と思った。何枚か写真を撮った。

海岸にでると潮が引き始めた干潟にハマシギの群れがあちこちでえさをあさっていた。

すると「成田さんですか」とTさんが声をかけてくれた。

ちようどいいので「この鳥はチュウヒですか？ 普段、見ているものより白っぽいのですが」とカメラの液晶画面を見せた。

「あ！これは大陸系のチュウヒで、日本で繁殖している褐色のとは違います。ここには大陸系と日本のものと両方います」と教えてくれた。



©成田篤彦

▲チュウヒ成鳥雌？

タカ目タカ科 全長48～58cm。冬鳥。ユーラシア大陸極東部で繁殖。北海道と本州中部以北で少数繁殖。千葉県最重要保護生物 2008年10月20日 上総の海岸＝成田篤彦撮影

◀チュウヒ幼鳥雌？

2010年11月24日
上総の海岸＝成田篤彦撮影



©成田篤彦



©成田篤彦

大陸系チュウヒ雄▶
2009年12月23日

上総のヨシ原＝成田篤彦撮影

しばらく観察していると、遠くの池の周りにタカが飛んでいた。

「あ！あれはチュウヒではないですか？ もっと近づいて、写真を撮りたい」と話すと「いや、チュウヒは我々をよく見えています。近づくと遠のきます」とTさん。

しかし、諦めきれないで、セイタカアワダチソウの藪をかき分けて、池の土手に上がった。すると彼女？が飛び立つのが見えた。しかし、Tさんの言うとおりで、遠くへ遠くへと飛び去っていき、川沿いの林に姿を消してしまった。

仕方なく、土手を下り、海岸に戻るとまた、ゆったりと池のまわりを飛び回っている。

彼女？にとってはこの池のまわりと川沿いの林がお気に入りの場所らしい。急いでまた、池に戻ると再び飛び去っていく。「私の動きを良く見ている」と思った。「もう少し近づかせて欲しい。ただ、あなたの堂々とした姿を写したいだけに」と思うのだが。今まで、相当怖い目に遭っていて、人との安全な距離を熟知しているのであろう。チュウヒと人の距離が縮むのは、人がどれだけ鳥を大切にしているかという「人と鳥の関係の文化」にかかっている。

さて、チュウヒは雄と雌でも、また、一羽、一羽、少しずつ羽色に違いがある。この海岸周辺には大陸か

ら渡ってきたチュウヒも昔からやってきているそうだ。これらの違いを比べるのも面白いと思うが私にはまだ、充分に区別できない。

また、この鳥はゆったりとヨシ原の上空をV字型に飛行し、えさを探して脚で捕える。そのためにフクロウのように眼が前向きにあり、ネコの目のような虹彩の色をしている。

渡良瀬遊水地のチュウヒのえさはカモ類、カラス類、ドバトなどの大形鳥類や、ヒヨドリ等の中形の鳥類、ホオジロ類やスズメなどの小鳥類、ハタネズミやジネズミなどの小形哺乳類、魚類、甲殻類と実にさまざまである。特に多いのは大形の鳥類で全体の約三十九%、次いで小形哺乳類が約三十%であると言う。

このすべてのえさの種類がこの海岸には生息している。

だが、上総でチュウヒがえさを捕る姿をまだ、見たことがない。彼らがどこで何を捕まえるのか見てみたいし、彼らのペリット（食べたものの消化できなかつた毛や骨などを吐き出したもの）も調べたいと思う。

いずれにせよ、チュウヒは二〇〇六年度版県レッドデータブックでは新たに最重要保護生物に指定され、県内でも貴重である。この鳥が上総に訪れるのは生物の豊かな広いヨシ原が残っていることを表している。この得難い自然を子供たちにも残していきたいものである。



©成田篤彦

▲チュウヒ 翼をV字型にして飛ぶ
2008年12月4日 上総の海岸付近＝成田篤彦撮影

〈参考文献〉千葉県の自然誌本編6。平野敏明2009バーダー「チュウヒとハイロチュウヒ」23巻12号p30文一総合出版。日高敏隆監修1996日本動物大百科3平凡社。